

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700086		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ喜楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2133-8		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村報告日	平成30年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間や季節を実感して頂けるように、施設内の壁面や装飾を季節に応じて模様替えを行っています。また入所者の方と装飾作業を一緒に行うことで季節感や楽しく過ごせるよう支援しています。日曜日以外は毎日午前中は体操や機能訓練を取り組んでおり、身体を動かし午後は日課表に基づいてレクリエーションを行い生活のリズムを築けるよう援助しています。適度な運動を行い十分な睡眠をとる事によりADL低下の予防、緩和を図り快適で穏やかな生活を送っていただくことを重要視しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な阿蘇に囲まれ、関連施設と隣接した事業所で、これまでの生活を大切にしたい毎日の生活が営まれている。法人の「今を大切にそして未来を大切に」の考えのもと、寄り添いを大切にしたいケアが行われている。入居者には一日の生活の中に機能訓練を取り入れたメニューが用意されており、リビングで皆で楽しむ姿も見られた。介護計画の「趣味・楽しみ・特技」にも継続した支援が見られ、入居者の編み物等趣味を楽しむ姿があった。また生活の中での食事も大切にされており、入居者の調理への携わりが難しくなってきたものの、日々の味・匂い・季節の関わり、食事時間の職員とのコミュニケーションで大きな役割を担っている。自由で安全な生活が今後も続く様な取り組みに期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアを実践出来るように毎年の目標を掲げ、入居者の方がその人らしい生活を送れるよう毎月のケア会議で振り返りを行っている。	入居者とその人らしく生活が送れるようにと考えられた理念について職員会議で毎回振り返りを行っている。日々のケアの基になる介護計画の作成の際には、計画作成者は理念・方針を念頭に作成しており、事業所全体の基礎となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店への買い物や飲食店に行ったり、地域行事への参加を継続している。また、地域の婦人会の方やボランティアの方が定期的に訪問され交流を深めている。	開設時より地域との関係作りに力を入れている。特に地域婦人会(フレッシュミズ)の農閑期のボランティア訪問、町の各種イベントへの参加等、継続した交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中・高校生の福祉体験学習を通じて認知症及び本人や家族への理解を地域の方々に深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。その中で近況報告や活動報告を行うと共に今後よりよい活動が出来るよう地域や行政の方々と意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議では地域・役場・入居者家族と共に職員も参加し、意見交換が行われている。事業所では地域行事の情報を得、また地域と行政を繋ぎ、相互の情報交換を行うことで、入居者を共に支える関係作りの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当課や社会福祉協議会との連携は良好で協力関係が出来ている。また、緊急時対応ネットワークのメンバーとして緊急対応品備蓄の協力を行っている。熊本地震発生時には、特に協力体制が発揮され役場からの支援もあった。	行政とは日頃から協力関係作りに努めている。一昨年の熊本地震以降、更に連携体制が強くなり、町の緊急対応時の備品、備蓄等、相互の協力関係が継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が国道沿いに面しており夜間のみ玄関を施錠している。また日々のケアの中で「知らないうちの身体拘束」のないよう職員間で話し合い理解と徹底に取り組んでいる。	日頃のケアや会議時には身体拘束やプライバシーに関して議題に取り上げ、振り返る機会を持つことで職員の理解と徹底を図っている。退院後等、車椅子を使う必要がある場合にも家族との話し合いを重ね、一つ一つの事柄を安易に進めることをせず、意見を出し合いながら進めている。	食事時の車椅子から椅子への移乗等、場面場面の行動の規制は見られませんでした。入居者の身体能力の低下防止のためにも拘束のないケアを是非継続してください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会議または月1回のホームの会議にて、毎日のケアにおける自分自身のケアの仕方を見つめ直し、虐待についての理解を深め学ぶ機会を作り防止に努めている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への理解認識が低く活用できるような支援も不十分である為、職員がそれらの制度や活動方法について学ぶ機会を作るよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、運営者自らが文書の説明を行い、利用者や家族に十分な納得を頂いたうえで、締結解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族より意見や要望などがあれば、全体研修会議や、ホーム長会議で他職員や管理者に伝え可能な限り反映出来るように努めている。	家族の面会は多く、来訪時には入居者の状況を伝える等で日頃の関係作りを行っている。代表や法人関係者と話すことで、親しみや安心を得られる家族の姿もあり、法人全体で家族からの意見を出しやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体研修会議で意見や提案を取り上げ、それを毎日のホーム長会議等で話し合い可能な限り反映できるよう努めている。	毎月の会議で職員の要望・意見を聴く機会を設けており、日頃からホーム長と職員間の関わりが多い。また代表も日に数回事業所を訪れたり、職員の意見交換の場を提供する等、意見を出しやすい体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の悩みなどを個別に話す機会を設けアドバイスやケアを行っている。来年度より人事考課制度を導入しやりがいのある職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて全体研修会議を行い、知識や技術の向上に努めている。また外部の研修会へ参加出来る制度を設けているが、すべての職員が受けられるような機会の確保がまだ不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会にて同業者との交流の機会はあるが、それ以外はほとんどない為、今後交流の機会を増やしていく必要がある。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して何でも話せる環境を整える事で不安な事や要望を聞きだせる関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何でも話せる雰囲気を作り意見や要望があれば耳を傾け速やかに対応する事で関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしい生活が送れるよう本人と家族からの意見を聞き、困っていることを見極める事で利用者さんに寄り添ったサービスを支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で共に助け合いながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況報告や状態変化時の速やかな連絡、対応を行い、家族と職員が共に利用者さんを支える事が出来る関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事への参加、近隣商店への買い物等により地元の人々との繋がりがりや関わりを保てるよう努めている。	地域の園児・小学生の訪問や地域行事・祭りへの参加等訪問は継続して行われている。近隣店舗へ散歩を兼ねた買い物も日常的に見られ、入居後の「生活」になっている。家族・友人の面会もよく見られる。	誕生会には嗜好品を提供したり、編み物を楽しむ姿があったりと、入居者それぞれが自由に生活を楽しむ姿が窺えました。以前の生活の支援を是非継続して欲しいと願います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や個性、相性を把握し孤立する事がないように、利用者さん同士が穏やかな生活が送れるよう支援している。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気兼ねなく新たなサービスを依頼出来るよう、施設外でお会いした際は声掛けをおこなったり相談がしやすい関係を保つように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話を大切に利用者さんの意向に寄り添えるよう努めている。また意向の実現が困難な時は、利用者さんが納得できるよう説明を行い、職員と共に代替りの案を話し合い本人主体で考慮出来るよう支援している。	職員は入居者との寄り添いを大切に、日中もよく会話が見られる。入居者がリビングで過ごす際には特に職員も傍で時間を共にし、不安にならない様、また気持ちを汲み取る様にしている。入居者の意向、家族の意見は介護計画へも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人さんや家族の方から、これまでの暮らし方や環境、生活歴を聞き取る。また関係機関との連携を図り、可能な限りの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活や触れ合いの中で、些細な状態の変化を見逃さないよう一人ひとりの状態の把握に努め、職員間で情報の共有しケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員間で意見の交換を行い、利用者さんがどのように日常生活を送れるかを第一に、介護記録や医療関係者との話し合った内容を考慮しながら介護計画を作成している。担当者を中心に必要時には随時計画内容の変更も行っている。	毎月全職員参加でモニタリングを行っている。入居者それぞれの担当職員が全職員に状況を説明し、意見を出し合う。担当者を中心として作成した介護計画は基本的に半年毎に見直しを行い、状況の変化時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や小さな事柄も常に記録し毎月のケア会議で見直しが必要なところは変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種の介護・医療機関や行政機関との連携を図ると共に、本人さんや家族のニーズの把握に努めることで、可能な限りのサービスを提供し多機能化できるよう取り組んでいる。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に数回、中高生の体験学習を受け入れており、また地域のボランティアの方が訪問されレクリエーションを行われるなど、地域の方々と触れ合い、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を重視し、本人、家族の希望する医療機関を利用できるよう配慮している。またかかりつけ医による定期的な往診があり、医師が利用者さんの状態を継続して診られる環境を整えている。	家族の意向を第一に入居前からの医療機関を継続して受診できる様支援しているが、現在、往診体制が整う協力医(3医院)からの選択がほとんどである。通院が必要な場合は職員が介助を行い、必要に応じ家族の付き添いも見られる。	月1~2回の定期往診、訪問歯科、訪問看護等、訪問医療が充実しています。通院は基本的に職員対応の様ですが、家族の高齢化により難しい状況ですが、情報・状況共有のためにも、家族へのさり気ない協力依頼の継続に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、気づきを大切にし医学的判断や処置が必要だと思われる場合は看護職へ相談、報告を行い迅速に適切な処置や受診が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室、担当者との連携を取り、入院中の利用者さんの状態把握に努めている。また退院時も情報交換に努め速やかに受け入れる体制を整え、信頼関係を築けるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期のあり方について、本人と家族の意見や要望を聞き出し、かかりつけ医の協力と連携を図り、関係者が一丸となって支援出来るよう取り組んでいる。	開所以来、入居者と家族の希望があれば看取りまでの対応を行い、往診・訪問看護の利用で医師・家族・事業所と相談を重ねながら共に支援する体制が出来ている。「病院ではない看取りケア」として、「家族の心のゆれも支援する」ケアに向け取り組みを始めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体研修会議を行い、看護職の指導のもと、全職員が対応出来るよう実際の事例を用いて検討も行っている。またマニュアル作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の実地をおこなっている。また防災設備と使用方法の説明、避難手順の講習をおこない全職員が身につくよう体制を整えている。	定期的な消防訓練では各事業所での訓練の後、法人全体で放水訓練を行う等、実践的な訓練を行っている。一昨年の熊本地震以降、自然災害への訓練や非常食についても勉強会を行い、また行政との協力体制も継続している。	熊本地震後は子ども室を準備し家族連れの勤務を受け入れたりと、法人全体で災害に取り組む様子が窺えました。いつ起こるかわからない自然災害に向け、対策の継続を行ってください。

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに対して馴れ馴れしい言葉使いになってしまうことがある為、全職員が利用者さんの尊厳に配慮した言葉かけと対応を身に着けられるよう職員間で注意し合うなどして努力している。	個人の尊重は法人の介護の基本の一つに掲げられており、マニュアルに則り、職員間で徹底されている。気になることがあれば、職員同士で注意し合い、都度話し合いを持つ体制が整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるように傾聴の姿勢を大切にしている。また自ら思いを伝える事が出来ない利用者さんは表情や動作からそれらを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの趣味・嗜好、体調や一日の行動を把握し各自のペースに合わせた日々の暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には理美容室の利用を支援し、日々の整容に注意をはらい声かけ介助を行い常に身だしなみを整えていられるよう努めている。また自分で服装を選ぶ事が出来ない方には職員が季節感を取り入れたその人らしい服を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	加齢に伴い、一緒に準備や片付けをする事が難しくなっている。また可能な限り職員も一緒に昼食をとり会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。	昼夜の食事作りには調理師が配置されている。調理師も入居者とよく関わりがあり、また同じ食事を入居者と共にとることで会話の中から好みや量の把握も行っている。食事の時間は職員・入居者の会話も盛り上がり、コミュニケーション作りの場ともなっている。	高齢化で準備や片付けが難しくなっている中、出来る範囲での関わりが見えました。車椅子利用者も椅子へ移乗し、また食事中は笑顔があふれ、食事時間を大切にしている姿勢を是非継続して欲しいと願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し食事量や水分量の把握に努めている。また1人ひとりの摂取量や嚥下能力・嗜好に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの能力に応じて、声掛けや見守り介助を行っている。また歯科医師と連携し、必要な方にはその指示に従って口腔ケアの介助を行っている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握しタイミングをみながら声掛けや誘導を行っている。	入居者一人ひとりの記録や体調・しぐさから声掛けを行い、日中は出来るだけトイレでの排泄に向け支援している。夜間はそれぞれの状況に応じて、安易にオムツを使用することなく、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整や毎朝の牛乳の提供、ホットパック腹部マッサージ等を行っている。便秘が多くみられる利用者さんには水分量のチェックをし水分強化や運動の声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて行っている。入浴を拒む方には原因や要因を職員で検討し本人の様子をみて再度声掛けする等の配慮を行っている。	週2～3回午後を基本とし、入居者の予定や希望を考慮した支援を行っており、入浴がない日にも清潔保持に努めている。必要になれば機械浴も整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状況や状態を申し送り等で情報交換を行い夜間は定時の巡回時などに空調の調整や不安感がある時の談話などを行い安心して気持ちいい睡眠が取れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬情報をファイルしチェックしている。また処方の変更があった場合は口頭や連絡ノートその他、業務日誌や介護記録にも残し変更内容を把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんとの会話や家族の情報より趣味や嗜好品を把握し、好きなものを食べたり好きな事ができ生活に楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけては月1回のレクリエーションの一環として利用者さん全員で外出し花見やドライブ果物狩り、近隣での外食するなどの活動を行っている。	毎日の行動計画が準備されており、散歩も取り入れられている。毎月の外出計画で花見や果物狩り、ドライブも予定され、また希望で近隣店舗への買い物や、家族協力での外出も見られる。甘味屋に隣接しており、おやつを楽しむこともある。希望があれば都度職員と共に散歩等外出の支援を行っている。	毎日の機能訓練で「散歩」が取り入れられ、力を入れている様子が窺えました。寒い時期は苑内散歩が多いようですが、季節の風を感じることも刺激になりますので、日常的な外出への工夫に期待します。

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、規定額ないでお金を所持してもらっている。買い物に行きたいとの要望あれば、職員同行にてお店へ行き買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は施設の電話を使用して頂いている。また手紙等の投函を代行したりして家族や知人の方と連携が取れるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を飾ったり、折り紙等で作った飾りを展示し季節感を出している。また室内の照明や温度に気を配り、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	明るい室内は温湿度に配慮されている。窓からはどこからも阿蘇の山々が見え、庭には季節の木や花が楽しめる。廊下には入居者の作品コーナーがあり、それぞれの作品が手作りの額に入れ飾られている。廊下にもソファがおかれ、思い思いに過ごすスペースが準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子やソファは利用者さんがいつでも自由に座れ、テレビ鑑賞や談話を楽しまれたり、廊下の一角にあるマッサージ機を利用したりと思い思いの時間を過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんにとって安心した居心地のよい空間となるよう、自宅で使われていた馴染みの物や好きな物を持ち込んで頂いている。	広々とした居室には入居前からの生活用品が持ち込まれ、好みの品物が置かれている。居室では編み物を楽しむ様子も見られ、入居者それぞれの生活が営まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも各所に設置している。また車椅子や歩行器使用の利用者さんでも安全に移動出来るよう十分な広さを取っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ喜楽

作成日 平成 30年 3月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		寒い時期の外出の機会がない	定期的に外出する事で季節を感じてもらう	年間の行事として月1回の外出を計画する	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。